

くろぐみだより

第3号 平成23年6月16日 あさひ幼稚園

こんにちは！今回のくろぐみだよりは「特集：節電ってなんのため？」を含め、裏表の大ボリュームでお届けします！字がいっぱいですが、読んで損なし、気合を入れて発行しています！

放射能情報

(園長 牧原東吾)

ほんとは、こんな情報を書かなければならない世の中にしてしまったのは、大人として子どもたちに謝るしかないのですが、参考になることがあればと思っ

て書いています。あの原発事故以来、この国に住む以上、これからは当分の間(かなり長い間)は放射能と付き合いをしなければならなくなってしまったので、現実を受け入れるしかありません。でも必要以上に神経質になって心を痛めてはいけません、必要な現実から目をそらしてもいけないと思います。

何人かのお母さんから、情報を得られるサイトの問い合わせをいただきましたので、いくつか紹介します。でも、必ずしも「園長が紹介したから、そのサイトは正しい」ということではありません。それぞれのご判断でどうぞ。

<http://savechild.net/>

「2011 SAVE CHILD 放射能汚染から子供を守ろう」
とてもたくさんの情報が得られます。

<http://www.saypeace.org/image/hibakuyobou.pdf>

「子供たちを被爆から守るために」岐阜環境医学研究所、松井英介氏監修

<http://www47.atwiki.jp/factorywikimobile/pages/310.html>

加工食品などの生産工場や原料がチェックできるツールです。

★緊急差込情報！★

岡崎市でこんな講座が行われます！！

環境学習講座

「未来を創るのは私たち ～放射能からわが子を守るために～」

講師：大沼淳一(元愛知県環境調査センター主任研究員)

日時：7月17日(日) 午後2:00～4:00(開場午後1:30)

場所：岡崎市勤労文化センター ホール

岡崎市美合町字五本松68番地(TEL0564-53-4163)

定員：300名(先着) 申し込み不要。

主催：特定非営利活動法人 おかざき環境教育フォーラム・わか

後援：岡崎市教育委員会 岡崎市地球温暖化防止隊

岡崎市環境まちづくり市民会議 (社)岡崎青年会議所

問合せ先：TEL0564-25-1818 織田重己

ありがとう、義援金！

(副園長)

3月から4月末までの義援金募集に対し、大変たくさんの方からのご協力をいただき、本当にありがとうございました。

この義援金は、なによりも、最も義援金が必要な今の時期にすぐ支援ができることを重視し、支援対象を「被災地の子ども」に焦点化し、愛知県私立幼稚園連盟を通じ、被害の甚大であった岩手県、宮城県、福島県、茨城県の幼稚園ならびに園児に、すでに送らせていただきました。

(日本赤十字社など、規模の大きい団体の義援金は、それもまた並行して必要ですが、義援金の分配が難しく、すぐに被災地に行き渡らないというデメリットもあります)

これで愛知県私立幼稚園連盟による義援金募集は、いったん終了となりました。しかし、あさひ幼稚園としては、引き続き義援金を募集いたします。

支援は継続的に行うべきだと考えているのと、それから、今でも義援金にご協力いただける方がいるからです。

今でも毎日、おばあちゃんと一緒に登園するとき、必ず募金箱にコインを

1枚入れてくれる女の子がいます。それから、たまにお迎えにみえるとき、ポケットから小銭を入れてくれるお父さんがいます。義援金の箱を出し忘れていて、「今日は箱ないの？」と聞いてくれる男の子がいます。

これって、とっても素敵なことではないですか？

これは、義援金を受け取る側の理屈ではないのかもしれませんが、義援金を送る側の理屈かもしれません。それでも、そこに「いいことをすると、気持ちがいいね！」というとてもポジティブな思いを感じるのです。

義援金をネットから振り込むのも、銀行口座に振り込むのも、もちろんいいことです。

チャリティー商品を買ったり、イベントに参加したり、いろいろな支援の方法があります。

だから、あさひ幼稚園でも、「おうちの人と一緒に、募金箱に入れる」という支援の方法を続けていきたいのです。

たまに小銭があるとき、普段バスの方が送迎されるとき、そんなとき、「少しのいいこと」をお子さんと一緒に実践する。それを、「きもちいいね！」って思える。これも、子どもと保護者の、素敵な時間・思いの共有です。子育てのひとつと言ってもいいかもしれません。

そんな機会をずっとつづけていきたい、そしてそれが結果としても被災地の方のためになれば、と思っています。

なお、募金先については、現在慎重に検討中です。

これからも、よろしくお願ひいたします。

って、そんなときに…

(副園長)

いろいろ調べていると、悲しいことに、詐欺的な募金もたくさんあるようです。たとえば、僕が個人的にとっても大好きな、青いネコ型ロボットのキャラをマスコットにした募金なんかは、かなり不透明なようです… 詳細については各自で調べていただければと思いますが、僕は怒り心頭です。みなさん、募金先はよく調べてからにしてくださいね…！

UVガードつき あかしろうし ご利用の方へ

裏のくろぐみだよりというより、表のあさひこつうしんでお知らせするような内容なのですが、できるだけ早くということなのでお知らせします。

先生たちからの提案で、お子さんが「UV ガードつきのあかしろうし」を利用している、全学年の保護者の方へ、次のようなお願いをすることになりました。

それは、現在UVガードを帽子本体にスナップボタンで着脱する仕様になっているのですが、活発に遊んでいるうちに、いつの間にか外れてなくなってしまう、特に年少さんは勢よくかぶった拍子に外れてしまったりして、遊びにくいことがありますので、「おうちでUVガードを帽子本体に縫い付けてほしい」ということです。

お手数をおかけいたしますが、よろしくお願ひいたします。

あさひこ tweet…

(年少さんの多くが、主任を呼ぶとき)

「カミカミせんせー。」(滑舌、悪いかしら…)

(年中女の子。水色の砂団子、何味？と聞いたら)

「空味。」(それ、どんな味…?)

★特集★ 『節電』ってなんのため???

(園長 牧原東吾 & 副園長)

メディアが、電力会社が、そして政府がさかんに節電を訴えています。節電自体は何の異論もなく、とてもいいことです。園でも節電の取り組みをしていこうと思っています。

でも、自然と子どもを愛するあさひこ幼稚園としては、それが浜岡原発を停止したことによるものだとして、「原発がないから不便な生活をしなきゃいけないになってしまった!」「原発はやっぱり必要だ!」という意見に誘導され、すりかえられてしまわないように十分注意しなければいけないと思っています。

節電は「原発のために」することではありません。

じゃあ何のために節電をするのかというと、「本当は」次のような目的のためです。

① 「地球の生き物を守ろう！」

地球上の生き物は自然環境の中で、すべてつながりあって生きています。これを生物多様性といいます。人間だけが愉快地快適に暮らすとエネルギーを使いすぎると、過剰な開発や生産・消費・廃棄を招いて、多くの生き物を絶滅させて、結局は人間も生きていけない地球になります。それを防ぐための節電です。

自然状態での種の絶滅速度は年に10~100種程度であったと考えられていますが、現在、人間活動によって引き起こされている種の絶滅は、過去とは比較にならない速度であることがわかっています。

1600年~1900年の絶滅速度は1年に0.25種であったものが、1900年~1960年には1年に1種、1960年~1975年には1年に1,000種、1975年以降は1年に40,000種以上と、種の絶滅速度は急激に上昇し続けています。

これは人間が高度成長の中でエネルギー消費を拡大したことにほぼ比例します。

過剰な開発や生産・消費・廃棄を控えることによって、地球を守るからこそが節電の目的なのです。

② 「同じ人間の仲間を守ろう！」

人間が生きていくのに必要なエネルギー資源を、世界中の人たちが平等に使うためです。贅沢のために使い過ぎている先進国(つまり日本も)が節電して、途上国、最貧国にエネルギーが回るような世界にしていくためです。

今の世界は次のような不平等なエネルギー格差になっています。

世界の人口を約16億ごとに4つに分けた場合、それぞれのエネルギー使用量は、

- A.工業文明国(先進国) -68%
- B.工業文明追随国(発展途上国) -17%
- C.第3世界の半分 -10%
- D.極貧の第3世界 -5%

という、信じられないほどの不平等さです。

一人当たりの消費量でいえば、最もエネルギーを消費している国と最も利用できない国とでは1000倍の格差があります。

私たち日本人についても、一人ひとり世界平均の2倍、アジア諸国の10倍から100倍のエネルギーを使っています。

貧しい国の人たちは命を維持するためのエネルギーも足りないのに、私たちの使っているエネルギーはほとんど贅沢のためのものです。

こんなふうに考えていくと、節電は、子どもたちの未来に豊かな地球を残すためのものです。そして世界中の人たちが平和に暮らすためのものです。

それに、これから、原発に頼らない社会を作ったとしても、火力発電だって環境を破壊しエネルギー資源を浪費するものなのだから、火力以外の自然エネルギー発電を進めながら、やはり同時に節電だってしていくべきなのです。

もともと私たちはエネルギーを使いすぎの異常な状態にいたので、節電するということは「人間らしい当たり前の状態に戻す」ということです。

また、「原発が使えないと経済成長が停滞しまう」と言う人がいますが、もうこれ以上、一部の国だけが経済成長することは、自然を壊し、貧富の差を拡大させて世界の平和を乱してしまうだけです。

ましてや、冒頭に書いたように、節電が「原発がないから不便になってしまった」というネガティブなキャンペーンになってしまっただけでは絶対にいけません!

チェルノブイリやフクシマが教えてくれたように、原子力発電所がひとたび事故を起こしてしまうと、人間の力では解決困難な被害(健康だけでなく、産業的にも、他すべてにおいても大被害です)を招いてしまいますし、たとえ運良く(こんな危険なのに運任せ…)事故を起こさずに済んだとしても、原子力発電は「必ず出てしまう超猛毒の放射性廃棄物をどう処理するかも決まっていない」という、普通に考えればとんでもないエネルギー政策です。

そんな危険なものと同じく換えに、今いつときの贅沢な生活を選んで、自分たちの、子どもたちの未来に禍根を残すことがあってはならないと思いませんか?

つい先ほどイタリアの国民投票の結果、94%の圧倒的多数の得票で原発の全廃が決まりました。すでにスイスもドイツも(日本のように地震の心配はないのに)脱原発を決定しています。

もしあなたが胎児だったとしたら、どんな国に、どんな世界に生まれてきたいと思うでしょうか?

ヒロシマ、ナガサキ、そしてフクシマ…。世界に類を見ない経験をしたはずの私たち日本人は、一体何を躊躇しているのでしょうか?

たしかに、科学や経済や政治の世界は、よくわからないことがたくさんあります。だから心優しい人たちは、意見を言うことを躊躇してしまうのかもしれませんが、でも、確実にわかっていることだって、そこから判断できることだって、たくさんあるはずですよ。

どうか、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん、すべての大人が、「数日間エアコンの温度を下げられないこと」や、「少し不景気になること」に対する不満を理由に、子どもの命と未来を、絶対に奪わないような選択をしてほしいと願っています。

だいいち、節電というのに苦しいイメージを持つ必要はありません。遊び感覚で楽しくやればいいのです。あさひこの私たちは、遊ぶことが大好きです。きっと、「楽しく工夫する」ことも、大得意です。

それに、汚染され、どこにいたらいいのか、何を食べたらいいのかもわからない未来…すでに放射能被害地域の方にとっては、「今」… なんかより、「貧しいながらも、楽しい我が家」で、じゅうぶん幸せです!

